(昭和二十二年八月四日第三種郵便物認可)

土木ニュース

昭和23年10月15日　第24號　(月刊)

発行所　土木學會
東京都中央區新川2丁目12番地
編集兼發行人　奥田敬輔
印刷人　山田梅吉
印刷所　太平社印刷所
(定價)　5円

(一)

式社 株會 横河橋梁製作所
本社　東京都千代田區丸ノ内1/2 三菱中央館
電話　丸ノ内(23) 1947・2155—9
工場　東京都芝浦・深川

営業種目
◇各種橋梁・轉車臺・運車臺・車輛・鋳骨
◇鎖塔・水壓鐵管・起重機・鋼構造物一切
各新改造修理ノ設計・製作・現場施行等急需ニ應ス

日本學術会議
同會議會員選擧について

本年七月、日本学術会議法が制定され、この法律に基き新たに日本学術会議が設立される事になつた事はすでに本紙に紹介した処であるが、同会議について、設立の趣意、内容並びにその選擧等に関し簡單な紹介をする。

日本學術會議の大要

わが國の再興と世界平和への貢献の爲めには科学の力が最も有効に活用されなければならないが、この際従来の学術体制に再検討を行い、新しい構想の下に全國科学者の総意総力を結集し新組織の確立が必要である。この爲に設立される様日本学術会議があつて、この成立と共に現在あるる本学士院及び学術研究会議は解散されるのである。

日本学術会議は、國の内外に対するわが國科学者の代表機関であつて、その主要任務は、次の二項である。

(1) 科学に関する重要事項の審議
(2) 研究の連絡

日本学術会議は科学に関する研究費、補助金の交付その他專門科学者の優遇に関する事項、日本学士院に関する事項。

第一回選擧に就いて

最初の選擧は本年十二月二十日の予定であるが、その有権者に対して投票用紙が立候補者名簿と共に発送される様、各位の御協力を切望するものである。

(選擧管理委員、平井教)

日本道路協会
事務所移轉

日本道路協会は建設省建設工事本部の融合に移つた、所在地は東京都港区芝浦一ノ二五建設省建設工事本部内、電芝(三)四五

新英和工學辞典
重版

久しく絶版になつていた土木学会編集「新英和工学辞典」は左記の通り重版される運びとなつた、価格二〇〇円(予定)送料二五円、土木学会編集、丸善発行、予約申込は学会宛二二五円を添え学会宛、九月中旬以降発送予定

お願い

会費の納入引揚復員会員の消息一報を御願いします

建設タイムス刊行

中部支部活躍に動く

中部支部では佐々木支部長の下に綜幹事などの新鋭を揃えて、活潑な活動を行つて来たが、新聞刊行の話が急速に熟り建設事業全般に大巾の理解を深めつつ会員相互の連絡を計るために七月二十日から中部建設タイムスの刊行を行つている、会費の納入引揚復員会員の消息一報を御願いします

中部支部
建設タイムス刊行

中部支部活躍に動く

中部支部では佐々木支部長の下に綜幹事などの新鋭を揃えて、活潑な活動を行つて来たが、新聞刊行の話が急速に熟り建設事業全般に大巾の理解を深めつつ会員相互の連絡を計るために七月二十日から中部建設タイムスの刊行を行つている、会費の納入引揚復員会員の消息一報を御願いします

宇野、高松間水陸連結
設備工事の再開

宇野高松間は四國と本土を一つの方も之に歩調を合せつつ唯一の貨車航送設備を設置するに着手した所在港であるが、従来は貨物のみの航送であつたのであるが、資材が不足の爲思う様に工事がはかぬ状態であつたが、今日に至つて漸く非能率的な運営をしどろもどろ状態であつたが、今日に至つて居た爲、しばしばその改良を叫ばれて来たが、一部の改良工事は戦時中の急速な要請により着手したのであるが、其目的を果さずして終戦をむかえしてしまつた

戦後この航路に使用すべき大型船舶（紫雲丸型）二隻の建造が許可されるや、バース設備と小型船舶による荷役の改良、港湾の整備、荷役機械の設置、荷役能率の向上の爲この緊急な要請されたことは誠に喜ばしい次第である。然し現在の様な日本の経済情勢では完全実施されると土建業は殆んど仕事が出来なくなりそうである。

（別表）I、現在輸送能力

船型	隻数	1航回日数	積載車数	1最能日高力	年1間平均能	旅客
紫雲丸型	2	3	0	0	0	3152
山陽丸型	2	4	0	0	0	2,322
字高丸型	5	10	10	100	70	0
関門丸型	11	24	6	144	101	0
計		41		244	171	5672

（別表）II、新造船3隻運航、バース2カ所完成

船型	隻数	1航回日数	積載車数	1最能日高力	年1間平均能	旅客
紫雲丸型	3	13	14	182	154	13650
字高丸型	2	12	10	120	84	0
計	5	25		302	238	13650

註：紫雲丸定員1,500、山陽丸定員903、乗船効率70%

建設
提言

建設的意見の投書を望む。一〇〇〇字以内。住所、氏名明記のこと

先ず第一に労働争議は許職業安定法が実施されてから半年以上経過した。労働者の地位向上の爲この緊急な法律の実施されたことは誠に喜ばしい次第である。然し現在の様な日本の経済情勢では完全実施されると土建業は殆んど仕事が出来なくなりそうである。

先ず第一に労働争議は許されないのであるが、現在の逆転軍政営工事を初めとして一般工事でも大体主要資材は支給と云うものが多く、業者持資材はその中の一部分である場合が多いからこれらが負請い工事として成立しないこととなる。

勿論失業保険とかこれに類した保障制度が完備し、又労働者の自覚が高まれば問題はない訳現在はまだそこまで行つていない。各業者も一方親方制度を廃止した訳であるが、実質は旧慣依然たるものが多いのではある訳でこれも労働者の経済能力が現在の如く低いと仕事の有無に拘らず或程度面倒を見て戴れる親方に頼る方が一番安全な方法である。

次に親方制度が廃止されたとしても労働者の経済能力が現在の如く低いと仕事の有無に拘らず或程度面倒を見て戴れる親方に頼る方が一番安全な方法である。

職業安定法の如き、高級官吏の立法は経済状勢が確立されないとこれ丈が独立している様ではあるまいか。

（北八生）

宇野、高松間水陸連結
設備工事の再開

宇野高松間は四國と本土を一つの方も之に歩調を合せつつ唯一の貨車航送設備である爲商業に着手した所在港であるが、従来は貨物のみの航送であつたのであるが、資材が不足の爲思う様に工事がはかぬ状態であつたが、今日に至つて漸く非能率的な運営をしどろもどろ状態であつたが、今日に至つて居た爲、しばしばその改良を叫ばれて来たが、一部の改良工事は戦時中の急速な要請により着手したのであるが、其目的を果さずして終戦をむかえしてしまつた

戦後この航路に使用すべき大型船舶（紫雲丸型）二隻の建造が許可されるや、バース設備と小型船舶による荷役の改良、港湾の整備、荷役機械の設置、荷役能率の向上の爲この緊急な要請されたことは誠に喜ばしい次第である。然し現在の様な日本の経済情勢では完全実施されると土建業は殆んど仕事が出来なくなりそうである。

建設的意見の投書を望む。一〇〇〇字以内。住所、氏名明記のこと

室談話
安定期

この春さかんに「中間安定期」などとまことしやかに唱えられたがどうやら「安定期」なるものを月二回（一日、十五日）既に第五号の誕生を見た、廣く地方各支部の協力を強く希望する事である

定價一部十円（一カ月二十円）学会員は一カ月十五円（年間一六〇円）学会員は一カ月十五円に割引、送料は別途加算されて便利なのだ。

本誌編集を行い、新聞紙二頁分のケーソン製作並びに据付、上部コンクリート工事に取かかると共に乗船設備の方も之に伴つて一部着工する事となつた

バースは宇野高松に二カ所ずつ設備する予定で両者の完成には約四億七千万円位を要する見込である。

本設備の特徴としては両港の干満の差が三米にも及ぶ結果、陸地より船尾貨車塔上飯田町青雲社会館内中部本策を講ずれば再建も困難だ。会費は一人前に三百円一カ所に可動橋渡船塔を設けて之に対処して居るが、会員に限らず一般の購読を勧める様にしたい。

土木被害總額
二二〇億に達す

アイオーン颱風による土木関係の被害総額二二〇億円に達した、そのうち直轄河川の被害は約卅億円である、去年のカサリン颱風による災害復旧費は一五〇億円、土木学会編集、丸善発行、予約申込は学会宛二二五円を添え学会宛、九月中旬以降発送予定

お願い

会費の納入引揚復員会員の消息一報を御願いします

日本道路協会
事務所移轉

日本道路協会は建設省建設工事本部の融合に移つた、所在地は東京都港区芝浦一ノ二五建設省建設工事本部内、電芝(三)四五

新英和工學辞典
重版

久しく絶版になつていた土木学会編集「新英和工学辞典」は左記の通り重版される運びとなつた、価格二〇〇円(予定)送料二五円、土木学会編集、丸善発行、予約申込は学会宛二二五円を添え学会宛、九月中旬以降発送予定

お願い

会費の納入引揚復員会員の消息一報を御願いします

室談話
安定期

この春さかんに「中間安定期」などとまことしやかに唱えられたがどうやら「安定期」なるものを月二回（一日、十五日）既に第五号の誕生を見た、廣く地方各支部の協力を強く希望する事である

定價一部十円（一カ月十円）学会員は一カ月十五円に割引、送料は別途加算されて便利なのだ。

本誌編集を行い、新聞紙二頁分のケーソン製作並びに据付、上部コンクリート工事に取かかると共に乗船設備の方も之に伴つて一部着工する事となつた

バースは宇野高松に二カ所ずつ設備する予定で両者の完成には約四億七千万円位を要する見込である。

本設備の特徴としては両港の干満の差が三米にも及ぶ結果、陸地より船尾貨車塔上飯田町青雲社会館内中部本策を講ずれば再建も困難だ。会費は一人前に三百円一カ所に可動橋渡船塔を設けて之に対処して居るが、会員に限らず一般の購読を勧める様にしたい。

第六回學會月例研究發表會

応募要項によつて、学会月例講演会を開催致します。奮つて御来臨下さい。

○日時　昭和二十三年十月八日（金曜）及び九日（土曜）両日共午前九時より午後四時頃迄

○會場　運輸省本省八階鉄道室

○講演

●第一日　十月八日（金曜）午前九時より午後四時頃迄

（一）應用力學・構造力學・橋梁部門
金沢工專　喜内敏君
都立工專　藤本盛久君
東大二工　岡本舜三君

（二）梁及び版の捩れ振動理論（三十分）
芝浦工專　谷本勉之助君
東大二工　星野和君

（三）変形法による連続アーチの解法並びにその影響線への應用（第一報）（三〇分）
芝浦工專　谷本勉之助君
東大二工　星野和君

（四）附、三次元應力函数の提案（三〇分）
東大二工　星野和君

（五）塑性理論の短形梁への應用（三〇分）
東大二工　星野和君

（六）高塔提内部應力に関する二、三の問題（四十五分）
京大　石原藤次郎君　丹羽義次君

（各自昼食）

（七）水理、造船、河川・發電部門
東帝大工　市田洋君
東大二工　林泰造君
東大二工　横田周平君
東大二工　本間仁君

（八）丈島軍艦沈没作業（三〇分）
（九）調圧水槽の安定性（第二報）（三〇分）
（十）洪水流に関する研究（四十五分）
（十一）建設省関東地方建設局
（十二）射流の平均流速公式（三〇分）

（三）水道部門
（十三）撒水濾過の固定式撒水方法に関する実験的研究（三〇分）
公衆衛生院　板本順二郎君
（十四）雨水流出量計算方法の比較研究（三〇分）
東大一工　廣瀬孝六郎君
岡工　德平淳君

第二日　十月九日（土曜）午前九時より午後四時頃迄

（四）土質力學部門
（一）水中に在る土の微量検出について（三〇分）
東大一工　久野悟郎君
（二）棒の貫入による土の抵抗及び其の考察（第一報）（三〇分）
東大一工　渡辺陳君
（三）急斜面土壌侵蝕の機構について（三〇分）
東大一工　田中茂君
（四）土の含水率と土の構造（三〇分）
東大一工　最上武雄君

（各自昼食）

（五）鉄道部門
（五）貨車操車場の機動的考察（四〇分）
運輸省東京地方施設部　原田宏君
（六）衝撃及び走行荷重による軌道の渦み運動について（四〇分）
運輸省鉄研　小野一良君
（七）堰堤コンクリートの強度規準並びに剪断強度について（三〇分）
日発電力技研　畑野正君
（八）鋼弦コンクリート桁の曲げ破壊について（三〇分）
運輸省技研　仁杉巌君
（九）既性理論を應用したる鉄筋コンクリート部材の破壊理論（三〇分）
建設省第一技研　山田原治君
（十）写真測量に於ける実体観測の精正について（三〇分）
安東功君

第七回月例研究発表会講演集について

十月十日迄に学会研究運営部宛に、題目及び講演所要時間を御知らせ下さい。

注意　講演者併記の場合は●印の付いた方が講演致します。

公共事業の危機
地方債の枠狭し

一方地方自治体も移譲され財源の確立を図り、給與改善その他に充当してしまつたため、補助事業は工事中止の窮状

政府ではその打開策を講ずるため、九月十五日北村大蔵、栗栖安本、野溝地財委一松建設の四相会議を開き事務当局案を持寄つて協議したところ、第三、四半期分四十四億円余については一應の見透を得るに至つたが、今回の水害其の他につては見通しがなく、今後たとえ追加予算が計上されてもそれに伴う地方財源の見通しがたたず、なかには事業を辞退する場合も生ずるのではないかと懸念される資金繰から公共事業には赤信号が発せられるに至つたが、何れも河川改修、道路修繕、都市復興等国土再建

国鉄では取敢えず三四半期分の復旧費として五億円を支出すべく事となつた

公共事業の労務者
標準賃金再改定

公共事業直轄労務者の標準のを総て含み一應土建業関係の全職種に及んでいる賃金の最高は京阪神地区の左官で日給四〇三円最低は東北・北陸地方の雑役雇作業に従事する者で日給八十六円となつている、総平均賃金は、今般一般職種別賃

論說

觀光事業に關連して

戰時中沈默させられていた觀光事業が敗戰後時代の脚光を浴びて第一線に出でんとしている。文化國家を論ずるものは必ず觀光立國を口にする。我が國は世界的な風景國である。我が國の自然、風土歷史、產業等のかもし出す風土景觀は多くの內外人によつてその差が賞揚されている。今後我が國が自立するためには觀光事業が重要な任務を有することは世人の等しく認むるところである。

然るに觀光事業に對する世人の認識は必ずしも適正とは云えない。先ず第一に觀光立國論者の唱うるものは國際觀光であつて、然るに往々にして國內觀光——觀光レクリエーション乃至歷史遊覽を含めて考えられるものであるが——を混同して問題としている。次に一部觀光立國論者の主張するところは、產業自立を無視した觀光第一主義である。

二、港灣より見た日本の天職

論一に於て、日本の港灣について如何なる觀方をしていたかは前に述べた通りであるが、彼の言わんとする處は、その地理學的の位置から日本の天職即ちその使命に就てである。曰く

「一、日本は島國なり、而して島國の用は常に大陸間の交流を助くるにあり、英國が欧米の間にあつては欧米の粹を採取して米を開き、米の富を以て欧を利するとは余輩の已に論ぜし所なり、シベリーが地中海の中央にありて亞欧、非ハアフリカ）三大陸の間に介し、一方にはフイニシヤ、バビロンの文明を吸收し、一方より埃及の文物を吸取し、之に住するに亜ぐ第三種の人を以てしたる日本の天職即ちその使命である

學會世論調査に見る

支部活動の要望高し

今回の世論調査は八月末日を以て締切つてその集計を行つた、回答を送つて来た数の概して少なかつたのは遺憾であるが寄せられた意見は建設的な内容を持つ点に於て注目に値する。

学べきものが多かつた。

1、正員と准員との区別撤廃に就て

撤廃を可とする　五九・七
撤廃を否とする　三六・六
回答なし　三・七
計　一〇〇・〇

撤廃を可とする意見は我が國の民主化を促進する上から老別を不可なりとし、撤廃を否とするものは学歴の上で新人の能力が異るから区別せよと云つている。又中に土木國土木学会の様に正員は学術の極威者及び事業の功績者のみに與えると云う意見もあつた。

2、定例刊行物に就て

論文集、会誌、土木ニュースの三本建を可とする　六一・〇
可とす　二・四
其の他　一〇〇・〇
計　三本建を可とする者に就て調らべた希望順位は会誌が一位、又内容に関する意見は建設的な内容を持つ者向きにすること、ニュースには海外情報も盛ること、論文集には所謂数式論文の外に國土計画論の如き学術的論文も載せること等を取入れてより現場技術